

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

産婦人科診療の現況

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics

緩和ケア研修会を開催しました

■特集

がん相談支援センターからのお知らせ

■院長エッセイ「四季雑感」

青空清みわたれ

■医療技術NOW!

眼科オープンシステムによるYAGレーザー治療

■絵の中の風景を旅するvol.16

にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介



産婦人科診療の現況

産婦人科部長:増原完治



2 年前の「はまかぜ」に地域周産期センター（産科+小児科:NICU）について投稿させて頂きましたので今回は産科の現況に関して述べます。現在産科5F病棟には産婦人科指導医4名、産婦人科専攻医5名の計9名、助産師24名、看護師27名の計51名が勤務しています。2015年度の分娩数は757件（帝王切開239件を含む）ですが、地域の医院の先生方より数多くのご紹介を頂き、ハイリスク妊娠・分娩が264件を占め、救急車等での緊急搬送受け入れ実績は165件を数えます。

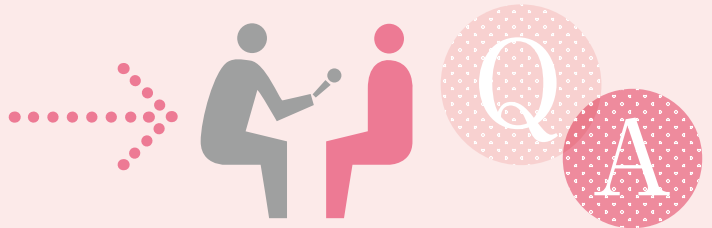
6床に増床致しましたが、これにより多くの早産児への対応が可能となりました。小児科とは外来・入院を問わずリスクのある妊産婦さんに関して毎週合同で症例検討会を開催しています。

当 院産科の特徴は小児科や救命救急センターとの密な連携による、より安全な医療の実践です。2014年7月よりNICU（新生児特定集中治療室）を

他 院からのショック状態にある重症患者の搬送症例には、2011年4月より当院に併設されている救命救急センターの医師と共に診療にあたることでより安全な医療が可能となりました。当院がDMAT指定医療機関であることから、近隣の医院に重症妊産婦を認めた場合、救命救急医と産科医がDMAT車に同乗しお迎えに行く母体救命救急システムを運用しています。是非御活用の程宜しくお願い致します。

産婦人科について質問!

INTERVIEW



Q 妊娠30週の妊婦です。
温泉旅行に行きたいのですが行っても大丈夫ですか？

A 妊娠経過が正常なら、時間や行程にゆとりをもって妊娠中期(16週～32週)以降に計画しましょう。
急なトラブル(出血や破水等)に備えて、旅行に行かれる際は必ず母子健康手帳を携帯して下さい。近くに受診できる施設があるかどうか調べておくことも必要です。
リラックス効果を期待して温泉に入るのはよいですが、体調が悪くなるような熱いお湯や長湯は避けましょう。転倒に注意し、水分補給はしっかりして下さい。
旅行に関して心配なことがある方は妊婦健診時に産科医にご相談下さい。

Q つわりがあって何も食べられません。赤ちゃんは大丈夫でしょうか？

A 赤ちゃんに影響はありません。つわりの時期は、栄養にこだわらず、食べられるものを摂取しましょう。脱水にならないよう、水分もしっかり取るよう心がけましょう。一般的に空腹時に気分が悪くなることが多いので、ビスケットなど簡単に食べられるものを近くに置いて、いつでも食べられるようにされると良いと思います。

(産科5階病棟 看護師長:永井 真奈美)

最新情報

出生前カウンセリング

2013年から新型出生前診断(NIPT)が施行されるようになり、出生前カウンセリングの重要性が強く言われるようになりました。当院では以前より羊水検査前のカウンセリングを施行しています。出生時の先天異常は3-5%に認められ、その25%が染色体異常です。NIPTなどの血液検査を行っても異常の75%は判明しません。また、遺伝的な疾患が家族内に認められる場合でも、罹患されている方の原因遺伝子が判明しなければ、遺伝子医療を専門に行っている病院でも出生前検査は困難です。当院では専門病院にご相談に行くかどうかを悩まれる妊婦様のご相談をお受けしております。



(産婦人科医長 谷口 友基子)

スタッフ紹介



- 信永 敏克 診療部長・産婦人科部長(前列右)
- 増原 完治 産婦人科部長(前列左)
- 磯部 晶 産婦人科医長(後列右1番目)
- 谷口友基子 産婦人科医長(右側上)
- 清水 亜麻 産婦人科専攻医(右側中央)
- 角田紗保里 産婦人科専攻医(後列左1番目)
- 永瀬 慶和 産婦人科専攻医(右側下)
- 山本 実咲 産婦人科専攻医(後列左2番目)
- 宇田 元 産婦人科専攻医(後列右2番目)

平成28年度県立西宮病院緩和ケア研修会を開催しました

9月24日(土)、25日(日)に、厚生労働省健康局長通知「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会を開催しました。がん対策推進基本計画では、がん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得すること、特にがん拠点病院では、自施設のがん診療に携わる全ての医師が緩和ケア研修会を修了することを目標としています。緩和ケアチームスタッフの協力の下、11人のファシリテーター(院内医師2人、院外医師6人、がん関連認定看護師3人)が、講義、グループワーク、ロールプレイを担当し、受講者16人(院内医師4人、院内研修医7人、院外医師4人、院外研修医1人)全員に修了証を授与することができました。



(消化器外科部長・緩和ケア委員会委員長：福永 睦)



がん相談支援センターより

1. 当院のがんの相談窓口

「がん相談支援センター」は、がんに関するご相談の窓口です。他の医療機関にかかっている方でも、質の高いがんの医療が受けられるためのサポートシステムです。

がん相談支援センター

がん相談とお伝えください

(0798) 34-5151 (代表)

受付日時/月曜日～金曜日(祝日を除く) 9:00～17:00

2. どなたでも無料で利用できます

「がん相談支援センター」は、患者さんやご家族のほか、地域の方々はどなたでも無料でご利用いただけます。「がん相談支援センター」では、国が指定した研修を修了した看護師や医療ソーシャルワーカーが専門相談員として対応しています。

がんと言われて、今後の治療やセカンドオピニオンについて、療養生活全般など相談することができます。ただ、あなたの担当医に代わって治療について判断するところではありませんので、ご注意ください。

3. 患者交流会をしています

1回目：8月30日 「がん治療中の口腔ケアについて」 / **2回目：11月30日** 「ウィッグについて」

3回目：2月23日 仮「骨転移について ええなびネット患者会代表より」

四季雑感



子 供たちの歓声が青空に突き抜ける運動会は、誰の心にも和みをもたらしてくれる秋の風物詩です。近年は様々な理由で行われなくなりましたが、校庭で家族が車座になって開いたお弁当は、どなたにも忘れられない思い出でしょう。運動会の最後を飾るリレー走は、リオ・オリンピックの男子400mリレーで日本チームが銀メダルをとった時と負けず劣らず、心躍るものがあつたように思います。

先日、当院主催の県民公開講座が開かれましたが、テーマは「女性のがん」でした。その中で講演された内容の一つをご紹介しますと、「近年、子宮頸がん罹患する年齢が若年化しており、その年齢のピークが40-44歳である」とのこと

でした。この年代の女性は子育てや仕事で大変多忙な日々を送っておられると思いますが、本人にはむろんのこと、家族のためにもがん検診を受けていただいて、早期発見、早期治療することが言うまでもなく大切なわけです。実際に治療法は格段に進歩していますし、生存率も着実に向上しています。ところが西宮市の子宮頸がん検診の受診率は、残念ながら、本当に残念ながら、兵庫県の中でもっとも低いグループに属しています。講師を務められた医師が講演で強調されていたように、私ども医療関係者はますます声を大にして、がん検診を勧奨していかなければいけないと痛感しています。

成人のがんにおいては、最近では高齢化とがんが結びつけられがちですが、仕事や子育てで時間的なゆとりのない青壮年に対して、がん検診、症状があれば医療機関を早く受診するように社会的な関心をさらに喚起していかなければならないと、改めて思い知らされました。清みわたった青空にとどく子供たちの歓声に、決してぐもりがあつてはならないのです。

兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男



医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

【眼科オープンシステムによるYAGレーザー治療】

この度眼科では、初めての試みとしてオープンシステムによる後発白内障のYAGレーザー治療を始めました。

後発白内障とは白内障術後にかなり高頻度で発症する晩期合併症です。白内障手術時に水晶体前嚢を円形に切開し、内容物である水晶体核、皮質などを可能な限り吸引除去し眼内レンズを嚢内に固定するのですが、水晶体嚢には水晶体上皮細胞が残存しておりいくらかきれいに取り除いたつもりでも物理的に細胞を一つ残らず除去することは困難です。術後残存した水晶体上皮細胞が時間の経過と共に変性増殖し、術直後にはクリアだった水晶体嚢が術後数ヶ月から数年すると次第に混濁してきます。瞳孔領に混濁が出てくると、また白内障が起きてきたかのように見え、視力低下を来します。これが後発白内障です。

YAGレーザーで混濁した水晶体後嚢にピントを合わせ瞳孔領の後嚢を切開すると、またクリアな光が眼底まで届く様になり元の視力に戻ります。治療時間は数分で痛みもなく、早い方ですと治療を終えて会計を済ませた頃には視力改善しますので、患者さんにとっても喜ばれる治療です。また合併症も殆どなく、安全な治療です。

これまではずべて当科の医師が治療を行っていましたが、かかりつけの先生が直接治療することでより患者さんの不安が少なくなると考えました。

後発白内障治療対象患者さんがおられましたら、地域医療連携センター経由で月・火・木午後のYAGレーザー治療枠を予約し簡単な紹介状を作成していただきます。当日患者さんが当院を受診されますと、所定の治療前検査・処置を眼科スタッフが行います。先生には予約時間に眼科外来で治療をしていただき、その後で自分のクリニックへ逆紹介、という流れになります。

システムの利用を希望される先生は、まず登録医の手続きが必要で。詳しくは地域医療連携センターまでお問い合わせ下さい。(0798-34-5174)



絵の中の風景を / 旅する vol.16

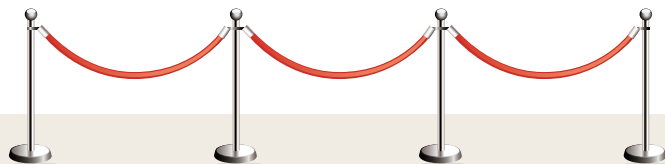
<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200以上にのぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館贈品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館5階
エレベーターホール前



断崖の上に造られた二つの街を結ぶ橋。まるで映画のワンシーンのような幻想的な風景ですが、これはスペインの南部、アンダルシア州にあるロンダという街を描いたものです。

ロンダは海拔739mの岩だらけの台地の上にあり、渓谷によって市街は2つに分断されています。分断された市街をつなぐこの橋は18世紀に造られた石橋で、高さは100メートルもあるそうです。この絵からもその迫力がよく伝わってきます。

この地域は他にも素晴らしい自然や歴史遺産を有するアンダルシア有数の観光地で、ワインのおいしいところだそうです。スペインを旅行する際にはぜひ訪れてみたいところですね。

(総務部:伏見 達)

編集後記

編集室



木々も色づく季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本誌では一人でも多くの方に当院を知っていただくとともに、医療の最新情報などを提供し、地域医療の一層の発展を目指しております。今回は産婦人科の紹介など妊婦さんやご家族のための記事も掲載しました。今後とも「患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献する」病院づくりに努めてまいりますので、引き続き「はまかぜ」をご愛読くださいますようお願いいたします。

(総務部総務課:海津 智孝)

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

H A M A K A Z E

2016
Vol. 16

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2016.11 発行